

第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人富山大学

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、カリキュラム改革や教育方法の改善、強みを持つ先端分野の研究強化やイノベーション創出を支える教育研究組織の整備・充実を図り、全国的な教育研究拠点に向けて機能強化を行うとともに、「地（知）の拠点」を目指し、地域活性化の中核的拠点として、マネジメント体制を確立することを基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	顕著な成果	上回る成果	達成	おおむね達成	不十分	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究			○			
社会連携			○			
その他			○			
業務運営				○		
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムにおいて、産学官共同で、県内医薬品産業の強み（製剤・ドラッグデリバリーシステム）を生かした医薬品の研究開発を実施している。また、地域再生人材育成事業として、魚津三太郎塾、とやま呉西圏域共創ビジネス研究所、たなべ未来創造塾の事業を継続して実施し、修了者の第二創業率は高い水準を維持している。

（業務運営・財務内容等）

デザイン思考の素養を有した創造力のある人材の育成と、人間社会と自然環境とが共生する理想的な社会の実現に寄与する教育研究の推進を目的として、学長のリーダーシップを発揮して人的・物的資源の重点配分を行い、学際融合の「都市デザイン学部」を設置している。また、従来 of 広報活動の点検・見直しの結果、大学広報誌の全面的なリニューアルを行うとともに大学が実施する持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた取組について、積極的に情報発信を行っている。

37 富山大学

一方で、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目1事項について、「中期計画を十分には実施していない」と認められることから、改善に向けた取組が求められる。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>

	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善事項
(I) 教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果			○			
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標			○			
①研究水準及び研究の成果			○			
②研究実施体制等の整備			○			
(III) 社会連携及び地域に関する 目標			○			
(IV) その他の目標			○			
①グローバル化			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

37 富山大学

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 全学横断PBLの先行実施

創造的問題解決能力を有する人材育成を行うため、各学部におけるカリキュラムの体系化を図るとともに、多様で柔軟な教育プログラムを構築するため、文理融合を視野に入れた学部横断型プログラムの検討を行い、同プログラムによる「全学横断PBL」を令和4年度からの本格実施に先駆け、令和2年度に先行して実施している。(中期計画1-1-1-1)

1-1-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。なお、4年目終了時に指摘した改善を要する点は改善されている。

1-1-3 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。なお、4年目終了時に指摘した改善を要する点は改善されている。

1-2教育の実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 学部の再編と都市デザイン学部の設置

社会的な教育ニーズに対応するとともに全学的な機能強化を図るため、平成30年度に入学定員1,800名のうち170名の学生定員に係る5学部の再編、経済学部及び工学部内の改組を行っている。また、同時に都市デザイン学部の新設を行っている。(中期計画1-2-1-2)

1-2-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、Moodle (オンデマンド) とZoom (リアルタイム) を利用した遠隔授業を開始し、原則として時間割どおりに授業を開講している。遠隔授業の実施にあたり、学生に向けた遠隔授業受講ガイダンスの開催、教員向けのMoodle講習会等の開催により、遠隔授業の整備を迅速に実施し、ICTを本格的に活用した教育の促進の取組を行っている。

1-2-3 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-3 学生への支援に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-3-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 障害学生への支援

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室において、身体の障害または発達障害傾向を有する学生に対し、入学試験における受験上の配慮等をはじめ、在学中の修学支援から就職活動に至るまで一貫して、学生のニーズに即したきめ細かな支援を実施している。さらに、卒業 (修了) 学生に対し、3年間継続してフォローアップを行っている。(中期計画1-3-1-2)

37 富山大学

1-3-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-4 入学者選抜に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1(小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 重点研究分野への支援

学長裁量経費等による重点研究分野の研究への集中的な支援により、研究の推進を図っている。さらに、研究組織をセンター化することにより、分野横断的な研究の推進に向けた体制強化を行っている。これにより、脳科学分野において科学研究基盤経費の特別推進研究の採択に繋がっている。(中期計画2-1-1-1)

○ 集中的支援による研究成果

重点研究分野に集中的な支援を実施し、異分野間研究者交流による研究の活性化を目的としたToyama Science GALAの実施、「つくりあげよう おもしろい大学フォーラム」における卓越教授の対談等により研究意欲を醸成するなどの取組の結果、第3期中期目標期間の重点研究分野の年間論文数平均は第2期中期目標期間の平均に比して18.9%増加(1,067報から1,269報)、令和元年度末の論文の被引用数は第2期中期目標期間の同時期に比して41.1%増加(平成25年度末1万929報から令和元年度末1万5,425報)している。(中期計画2-1-1-1)

37 富山大学

2-1-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

2-1-3 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

2-1-4 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 医薬品産業への研究成果の還元

平成30年度から実施している「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムにおいて、産学官共同で、県内医薬品産業の強み（製剤・ドラッグデリバリーシステム）を活かした医薬品の研究開発を実施している。これにより医薬品産業への研究成果の還元だけでなく、産業化による若者の地元定着や首都圏の学生を対象としたサマースクールの開催等による人材流入の促進を目指している。また、本事業の成果について、「フォーラム富山「創薬」研究会」において報告を行い、県内薬業界全体での情報共有を行っている。（中期計画2-1-4-1、2-1-4-2）

○ 地域産業界との連携による社会還元

令和元年度から富山県、県内のアルミ産業界及び県内高等教育機関の連携により実施されている「とやまアルミコンソーシアム事業」において、複数企業等と共同で研究開発プロジェクトを実施している。水素の安定性に係る開発成果を特許申請したほか複数の技術・手法を開発し、インフラ等への技術利用による研究成果の社会還元を目指している。（中期計画2-1-4-2）

2-2 研究実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-2-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 学生スーパーユーザーの養成

設備サポート・マネジメントオフィスでは、大型設備の3キャンパス横断的共同利用体制の構築に向けた取組を行うとともに、大学院及び学部生で機器の基本的なメンテナンスや運用が可能なユーザー（スーパーユーザー）を養成するための育成プログラムを実施し、平成30年度は20名、令和元年度は9名の学生を認定している。(中期計画2-2-1-2)

○ 和漢医薬学総合研究所の機能強化

和漢医薬学総合研究所の機能強化に向けた検討を行った結果、東西医薬学の融合を基盤とした次世代型医療科学の創生に向け、研究部門の統廃合を行い、また臨床応用部門、産官学連携部門及び附属教育研究施設として和漢医薬教育研修センターを新設している。(中期計画2-2-1-3)

2-2-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 自治体との協働による社会貢献

舟橋村の子育て共助のまちづくり事業において、村役場職員や参加企業社員に対する人材育成を行ったほか、公園プロジェクトの運営補助等も実施している。取組の結果、他の自治体等においてモデルケースとして講演等を行っているほか、同プロジェクトは同村への転入者アンケート等においても好評を得ている。また、平成30年度第34回都市公園等コンクール(日本公園緑地協会)において国土交通大臣賞を受賞している。(中期計画3-1-1-1)

○ 地域課題解決型人材の育成

地域課題解決型人材育成プログラムでは、教養教育から専門教育にわたる3つの科目群全178科目を階層的に設置している。特に中核科目5科目はキャリア教育、アクティブ・ラーニング、学部を越えた学生間の学び合いの促進に向け、全学の教育改革の先導的な役割を果たすとともに、学生のコミュニティ・マインド醸成に寄与している。令和元年度には初の修了者1,059名を輩出し、地域課題解決型人材育成プログラム修了証を交付し、「未来の地域リーダー」の称号を授与している。(中期計画3-1-1-2)

○ 地域再生人材育成事業の高評価

地域再生人材育成事業として、魚津三太郎塾、とやま呉西圏域共創ビジネス研究所、たなべ未来創造塾の事業を継続して実施し、修了者の第二創業率は68.3%となっている。また、一連の取組は、経済産業省第7回地域産業支援プログラム表彰事業(イノベーションネットアワード2018)の優秀賞、内閣府まち・ひと・しごと創生本部人材・組織の育成及び関係人口に関する検討会における新たな地域人材育成の先駆事例として教員が発表するなど、外部から評価されている。(中期計画3-1-1-3)

3-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(IV) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

4-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

4-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 脳科学分野の国際シンポジウム

重点研究分野である脳科学分野における国際シンポジウム Toyama Forum for Academic Summit on “Dynamic Brain” を主催している。国内外から研究者を招へいし、招待講演(海外研究者5件、国内研究者12件)、最先端の研究の情報交換及び議論を行ったほか、神経科学分野における若手研究者の研究推進に向けたポスターセッション等を行っている。(参加者約160名)(中期計画4-1-2-1)

4-1-3 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ グローバル化に向けた教育環境の整備

英語による授業の増加やシラバスの英語化を図るとともに、短期留学に対応しやすい学事暦の柔軟化の検討を行った結果、英語による授業開講数は、学士課程では平成29年度の19から平成30年度の79、大学院課程では平成29年度の25から平成30年度の87に増加している。クォーター制については、都市デザイン学部が学部開設に合わせ平成30年度から、経済学部と芸術文化学部が令和元年度から導入している。(中期計画4-1-3-1)

(2) 附属病院に関する目標

医師キャリアパス創造センターを設置し、医学部の卒前教育から、卒後臨床研修及び専門医の取得に至る一体的な教育プログラムを構築するとともに、地域医療を担う人材育成及び地域医療の向上に向けた取組を一体的に支援する体制を整備しているほか、臨床研究管理センターを新設し、臨床研究支援体制の機能強化を図っている。診療面では、「包括的脳卒中センター」や「膵臓・胆道センター」、「ジェンダーセンター」など、多職種連携による専門的診断・治療に係る医療体制を整備している。また、夜間・休日診療体制の見直しのほか、各外来にドクターズクラークを配置するなど、医療従事者の働き方改革を推進している。

<特記すべき点>

(優れた点)

(教育・研究面)

○ 医師キャリアパス創造センターの設置

平成28年度に、医学教育部門、卒後臨床研修部門、専門医養成支援部門から成る医師キャリアパス創造センターを設置し、医学部の卒前教育から、卒後臨床研修及び専門医の取得に至る一体的な教育プログラムを構築するとともに、地域医療を担う人材育成及び地域医療の向上に向けた取組を一体的に支援する体制を整備している。

○ 臨床研究支援体制の機能強化

臨床研究を一層推進するため、平成28年度に臨床研究推進センターと臨床研究・倫理センターを統合し、臨床研究管理センターを新たに設置することで、治験や臨床研究に関して相談から実施までを一元的に支援することを可能としているなど、臨床研究支援体制の機能強化を図っている。

37 富山大学

(診療面)

○ 専門的な医療の提供体制の強化

平成30年度から包括的脳卒中センターを設置して、超急性期治療から回復期リハビリまでを包括的に治療できる体制を整備している。また、平成30年9月に、国内では初となる膵臓・胆道センターを設置し、消化器内科、消化器外科、放射線診断科、放射線治療科、臨床腫瘍部、病理部等の各領域における専門家が共同で、膵臓・胆道疾患の専門的診断・専門的治療に当たる体制を整えている。さらに、平成31年度には、「形成再建外科・美容外科」及び「リハビリテーション科」を新設したほか、令和2年度には、「乳がん先端医療・乳房再建センター」、「地域医療総合支援センター」、「地域医療再生センター」、「総合がんセンター」及び「ロボット手術センター」を設置するなど、専門的な医療の提供体制を強化している。

○ 医師・看護師等の負担軽減、医療職種間の役割分担の推進

平成29年度から、医師等のメディカルスタッフの業務負担を軽減するため、急患対応等に備えて行われている夜間当番勤務及び夜勤を可能な範囲で廃止し、代わりに医師等のメディカルスタッフが自宅等で待機するオンコール体制(手当を支給)に一部移行し、平成31年度には、これまで各診療科が当直医の配置によって対応してきた夜間・休日診療体制について、医師の働き方改革の一環としてオンコールを基本とする体制への見直しを行い、令和2年2月から試行的に開始している。また、平成30年度から各外来にドクターズクラークを配置して医師の負担軽減を図るなど、医療従事者の働き方改革を推進している。

○ ジェンダーセンターの設立

令和3年10月に、性同一性障害の患者の外科治療、性同一性障害に関する情報発信を目的とする「ジェンダーセンター」を北陸の大学病院としては初めて設立し、令和4年1月までに3症例の性同一性障害乳房切除術を行っており、令和4年度中には施設認定基準となる20症例の手術症例数を達成し、公的医療保険が適用となる見込みとなっている。

(運営面)

○ 地域医療連携の強化

電子カルテシステム内の地域医療連携機能を稼働させ、診療所等から附属病院の電子カルテシステムの閲覧を可能としており、令和3年度末までに50医療機関へ増加させるとともに、地域医療連携の強化と病院の役割分担の推進を図るため、富山県内の8病院と医療連携協定を締結している。また、連携登録医数を着実に増加するとともに、連携登録医の現状や担当分野を踏まえた逆紹介の支援体制を確立した結果、コロナ禍にも関わらず、令和2年度は紹介率80.9%、逆紹介率68.5%、令和3年度は紹介率81.2%、逆紹介率65.3%とするなど、充実した地域医療連携を行っている。

○ 安定的な経営基盤確保に向けた取組の実施

安定的な経営基盤確保に向け、経営担当副院長を座長とした経営改善タスクフォースを設置し、収支改善のための対策（増収・経費削減）の検討及び実施状況の進捗管理に取り組むとともに、新たに経営コンサルタントの助言も受け、診療報酬における新たな加算項目の洗い出しや後発医薬品への切替え、医療用消耗品の安価品への切替え等に取り組んでいる。また、「外来患者の受付可能時間を予約の1時間前からとする運用」や「新型コロナウイルス感染症対策のためのテレビ電話による患者面会システムの導入」、「手術器材の見直しによるコスト削減」等の取組を実施するなど、経営改善に向けた取組を継続的に行っている。

（3）附属学校に関する目標

人間発達科学部教員と附属学校園教員による共同研究グループを構築し、「ICTの教育利用」等テーマに基づき共同研究プロジェクトを実施し、ウェブサイト等を通じて研究成果の発信を行うなど、研究成果の普及を図っている。

また、学部教員が附属学校園で授業を、一方、附属学校教員が学部で講義を行うなど、学部、附属学校のリソースを相互に活用し先導的・実践的な授業に取り組むことで、相互の資質の向上に取り組んでいる。

<特記すべき点>

（優れた点）

○ 学部との共同研究

先導的・実践的な教育研究を行うため、毎年度、人間発達科学部と連携した共同研究グループを構築し、令和3年度では13グループ、延べ97名の教員が参加している。参加した教員は、調査研究会や地域の学校の校内研修会等で実践事例を紹介することを通じて、共同研究プロジェクトにおいて培った経験を地域の教育研究へ普及させている。

○ 学部のリソースを生かした取組

平成29年度及び平成30年度に、試行的に大学教員が附属学校園で授業を行う取組を実施し、令和元年度以降もその実績を踏まえ「附属学校園での大学教員による授業実施の計画」を策定するなど、大学教員は専門分野の研究を生かした探究的な授業を附属学校園で行う取組を継続している。一方、附属学校園教員は教育現場を題材とした課題解決につながる講義を学部及び大学院で行うなど、相互にリソースを提供し学部との連携を深めることで相互の資質の向上に取り組んでいる。

定員超過の状況

○理工学教育部における定員超過

平成28年度から令和3年度において一貫して理工学教育部の収容定員超過率が110%を上回っていることから、今後速やかに入学定員の見直しを含め定員超過の改善が求められる。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善
(1) 業務運営の改善及び効率化				○		
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期目標をおおむね達成している

<p>(理由) 中期計画の記載16事項中15事項が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、1事項が「中期計画を十分には実施していない」と認められること等を総合的に勘案したことによる。(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された計画(6事項)についてはプロセスや内容等も評価)</p>
--

(法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項)

<p>中期計画【56-2】については、法人が掲げる目標が達成しておらず、また、達成されなかったことについて勘案すべき事情が認められないことから、「中期計画を十分には実施していない」と判断した。</p>
--

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○ 理工系の教育研究機能の強化を実現するための組織再編

<p>デザイン思考の素養を有した創造力のある人材の育成と、人間社会と自然環境とが共生する理想的な社会の実現に寄与する教育研究の推進を目的として学際融合の都市デザイン学部を平成30年度に設置している。学部設置に当たっては、学内5学部から170名の学生定員を移行するとともに、教員人件費ポイントを集約及び再配分しており、16名の新規採用教員分を含め、同学部分として48名分の人的資源配分を行うほか、環境整備事業として、主に学長裁量経費により10億7,168万円(平成28～令和元年度合計)を配分するなど学長のリーダーシップを発揮した人的・物的資源の重点配分を実現している。</p>
--

(改善すべき点)**○ 中期計画を十分には実施していないと認められる事項**

「若手教員の雇用に関する計画に基づき、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員としての雇用を、若手教員の比率が20%となるよう促進する。」(中期計画【56-2】)については、「本学の研究力向上と教育研究の活性化に向けての教員の職階構成及び年齢構成の適正化への取組方針」により若手教員の雇用推進に取り組んでいるものの、令和3年度末時点の若手研究者比率は14.4%となっており、中期計画を十分には実施していないと認められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載5事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載3事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>**(優れた点)****○ 広報活動の改善による情報発信**

大学の広報活動について、積極的な情報公開と分かりやすい情報発信をさらに推進させる観点から、従来を取組の点検及び見直しを行っており、その結果、大学広報誌の全面的なリニューアルを通じた地域・一般の人々への分かりやすい情報を発信するとともに、大学が実施する持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた取組について、学内及び学外に対して広く共有を図るため、取組事例の一覧をウェブサイト上で公開し、積極的に情報発信を行っている。

37 富山大学

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載10事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(改善すべき点)

○ 借受物品等の不適切な管理

借受物品を無断廃棄した事案が令和2・3年度に複数回発生していることから、改善に向けた取組が実施されているものの、引き続き再発防止に向けた組織的な取組を実施することが望まれる。